

保険・証券

1. 評価対象企業（9社）

かんぽ生命保険、SOMPOホールディングス、MS&ADインシュアランスグループホールディングス、ソニーフィナンシャルホールディングス、第一生命ホールディングス、東京海上ホールディングス、T&Dホールディングス、大和証券グループ本社、野村ホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	5	31
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	11
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	16
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	3	12
計		20	100

（注）評価項目の内容および配点は122頁参照

(2) 評価実施アナリストは18名（所属先18社）である。（123頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は121頁参照）

- ① 本年度は、**経営陣のIR姿勢等**ほか2分野において、項目の新設、統合、削除、内容変更または配点変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は74.5点（昨年度74.1点）、総合評価点の標準偏差は、7.8点（昨年度4.9点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、保険（7社：かんぽ生命保険、SOMPOホールディングス、MS&ADインシュアランスグループホールディングス、ソニーフィナンシャルホールディングス、第一生命ホールディングス、東京海上ホールディングス、T&Dホールディングス）が76.0点（昨年度74.4点）、証券（2社：大和証券グループ本社、野村ホールディングス）が69.5点（昨年度73.3点）となり、昨年度に比べ、保険が改善したものの、証券が低下した。この結果、業態間の差は拡大した。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が76%（昨年度同率）、**説明会等**が77%（昨年度75%）、**フェア・ディスクロージャー**が81%（昨年度82%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が76%（昨年度74%）、**自主的な情報開示**が58%（昨年度60%）となり、各分野共に昨年度とほぼ同水準であった。なお、**自主的な情報開示**が他の分野に比べて低水準の状況が続いた。
- ④ 評価項目について見ると、全20項目中、**経営陣のIR姿勢等**の1項目（(b)）、**説明会等**の1項目（(c)）、**フェア・ディスクロージャー**の2項目（(a) (d)）の合計4項目が平均得点率で80%以上となり、高水準となった。

- (a) 「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況）を日英両言語で行っていますか」（平均得点率 87%）（得点率：95%2 社・90%4 社・85%1 社・80%1 社）
- (b) 「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか」（平均得点率 82%）（得点率：95%3 社・85%1 社・80%1 社）
- (c) 「決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか」（平均得点率 81%）（得点率：95%2 社・90%1 社・80%1 社）
- (d) 「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものです。短期、中長期での業績見通し上有益な情報、ガイダンスをプレスリリース、説明会、ウェブサイト上などで広く開示していますか」（平均得点率 81%）（得点率：80%台 6 社）
- ⑤ 一方、次の 2 項目は、平均得点率が 50%台以下となり、低水準となった。
- (e) 「有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか」（平均得点率 49%）（得点率：30%台 5 社・45%1 社）
- (f) 「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、テーマ別説明会等を積極的に実施していますか」（平均得点率 56%）（得点率：30%台 1 社・40%台 2 社）
- ⑥ なお、本年度新設した項目については、次のとおりとなった。
- ・「IR 部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか」（平均得点率 74%）（得点率：90%2 社・80%2 社・70%2 社）
- ⑦ また、決算発表の迅速化かつ分散化を求める声、説明会のライブ配信や説明会資料の早期アップロードが未対応の企業に対し改善を求める声、四半期決算の補足資料（エクセルシート形式）の充実を求める声が寄せられた。

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 東京海上ホールディングス（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 2 回目〕、総合評価点 85.5 点〔昨年度比+4.0 点〕

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率（以下省略）90%）、説明会等（85%）、フェア・ディスクロージャー（85%）、コーポレート・ガバナンス関連（89%）が第 1 位、自主的情報開示（71%）が第 3 位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会等やミーティング等において経営方針を十分に説明するなど IR に積極的に関与していること、市場と積極的かつ十分にコミュニケーションを取る意欲を持っていること」、「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」、「同部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていること」、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」および「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」が共に最も高い評価となり、全ての項目で第 1 位となった。
- ③ 説明会等においては、「部門別・地域別など財務分析に必要なデータが一貫して十分に開示・説明されていること」、「事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）の開示が十分にされていること」、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）が十分に説明されていること」、「決算説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）や資料が十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」および「決算補足説明資料が業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」が共に最も高い評価となり、6 項目中 5 項目で第 1 位となった。なお、「決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいること」は平均得点率に達しなかった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が株価に影響を及ぼす重要情報について（報道機関等への対応を含む）公平な情報開示に十分注意を払っていること」、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が、積極的に行われ、遅滞なく十分であること、短期、中長期での業績見通し上、有益な情報、ガイダンスをプレスリリース、説明会、ウェブサイト上などで広く開示していること」および「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況）を日英両言語で行っていること」が共に最も高い評価となり、全ての項目で第 1 位となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況、経営陣としての目的などが十分に説明されていること」および「中・長期経営計画（ROE の他、業界の特性を踏まえた利益指標、収益性指標やその他の KPI）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること」が共に最も高い評価となった。また、「資本政策（リスク量の開示を含む）、株主還元方針が十分に説明されていること」が第 3 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、テーマ別説明会等を積極的に実施していること」が第 3 位となった。また、「統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が高い評価となった。さらに、「有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」が同得点第 2 位となった。なお、グローバルピアと自社を比較した上で、長期業績目標を掲げている点を評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 SOMPOホールディングス（総合評価点 83.5 点〔昨年度比+5.6 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（85%）、**説明会等**（83%）、**自主的情報開示**（77%）が第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第 2 位（87%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 4 位（82%）となった。昨年度に比べ、4 分野の得点率が改善し、総合評価点の上昇（上昇幅第 1 位）につながった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会等やミーティング等において経営方針を十分に説明するなど IR に積極的に関与していること、市場と積極的かつ十分にコミュニケーションを取る意欲を持っていること」が高い評価となった。また、「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」も高い評価となったことに加え、「同部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていること」が最も高い評価となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルール of 趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」も最も高い評価となったことに加え、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」が評価された。
- ③ **説明会等**においては、「事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的情報開示を含む）の開示が十分にされていること」が最も高い評価となったことに加え、「部門別・地域別など財務分析に必要なデータが一貫して十分に開示・説明されていること」、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）が十分に説明されていること」および「決算説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）や資料が十分かつ効率的な運営に配慮したものであること」が共に高い評価となった。また、「決算補足説明資料が業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」が最も高い評価となった。なお、「決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいること」は平均得点率に達しなかった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が、積極的に行われ、遅滞なく十分であること、短期、中長期での業績見通し上、有益な情報、ガイダンスをプレスリリース、説明会、ウェブサイト上などで広く開示していること」が評価された。また、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況）を日英両言語で行っていること」が最も高い評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況、経営陣としての目的などが十分に説明されていること」が評価された。また、「資本政策（リスク量の開示を含む）、株主還元方針が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。さらに、「中・長期経営計画（ROE の他、業界の特性を踏まえた利益指標、収益性指標やその他の KPI）を公表し、その後の進捗状況・達成のた

めの具体的方策が十分に説明されていること」が高い評価となった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、テーマ別説明会等を積極的に実施していること」が第 2 位となった。また、「統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が高い評価となった。さらに、「有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」が最も高い評価となった。

第 3 位 MS&AD インシュアランスグループホールディングス(総合評価点 82.2 点[昨年度比+5.3 点]、昨年度第 3 位)

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第 1 位 (79%)、**フェア・ディスクロージャー** (84%)、**コーポレート・ガバナンス関連** (87%) が同得点第 2 位、**経営陣の IR 姿勢等** (81%)、**説明会等** (81%) が第 3 位となった。昨年度に比べ、全ての分野の得点率が改善し、総合評価点の上昇 (上昇幅第 2 位) につながった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会等やミーティング等において経営方針を十分に説明するなど IR に積極的に関与していること、市場と積極的かつ十分にコミュニケーションを取る意欲を持っていること」が高い評価となった。また、「IR 部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていること」が評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が最も高い評価となったことに加え、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」が評価された。
- ③ **説明会等**においては、「部門別・地域別など財務分析に必要なデータが一貫して十分に開示・説明されていること」および「決算説明会における会社側の説明 (質疑応答を含む) や資料が十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」が共に高い評価となったことに加え、「事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等 (自主的開示を含む) の開示が十分にされていること」が評価された。また、「決算補足説明資料が業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」が高い評価となった。なお、「決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいること」は平均得点率に達しなかった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が株価に影響を及ぼす重要情報について (報道機関等への対応を含む) 公平な情報開示に十分注意を払っていること」が評価されたことに加え、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が、積極的に行われ、遅滞なく十分であること、短期、中長期での業績見通し上、有益な情報、ガイダンスをプレスリリース、説明会、ウェブサイト上などで広く開示していること」が最も高い評価となった。また、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供 (過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況) を日英両言語で行っていること」が高い評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況、経営陣としての目的などが十分に説明されていること」、「資本政策 (リスク量の開示を含む)、株主還元方針が十分に説明されていること」および「中・長期経営計画 (ROE の他、業界の特性を踏まえた利益指標、収益性指標やその他の KPI) を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること」が共に高い評価となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「MS&AD IR Day」、ESG 説明会の開催などにより、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、テーマ別説明会等を積極的に実施していること」が最も高い評価となったことに加えて、「統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報 (ESG 情報等) の開示に積極的に取り組んでいること」も最も高い評価となった。また、「有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」が同得点第 2 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。なお、統合報告書、サステナビリティ報告書において、内容が充実しているとの声がある一方で、M&A に際しての内部ルールについて説明し、投資家の安心感を高める必要があるとの声もあった。

以 上

2019年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (保険・証券)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目5 (配点 31点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目6 (配点 30点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目3 (配点 11点)		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 評価項目3 (配点 16点)		5. 各業種の状態に即した自主的な情報開示 評価項目3 (配点 12点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8766 東京海上ホールディングス	85.5	27.8	1	25.6	1	9.4	1	14.2	1	8.5	3	1
2	8630 SOMPOホールディングス	83.5	26.5	2	24.9	2	9.0	4	13.9	2	9.2	2	2
3	8725 MS&ADインシュアランスグループホールディングス	82.2	25.2	3	24.4	3	9.2	2	13.9	2	9.5	1	3
4	8750 第一生命ホールディングス	76.9	24.6	4	23.3	5	9.2	2	12.8	4	7.0	4	4
5	8601 大和証券グループ本社	71.6	22.0	6	23.6	4	8.9	6	11.4	6	5.7	7	5
6	8729 ソニーフィナンシャルホールディングス	70.5	21.5	7	22.4	6	9.0	4	11.1	7	6.5	6	8
7	8795 T&Dホールディングス	69.8	22.4	5	21.9	7	8.7	7	11.6	5	5.2	8	6
8	8604 野村ホールディングス	67.3	20.6	8	21.1	8	8.7	7	10.3	9	6.6	5	7
9	7181 かんぽ生命保険	63.6	20.1	9	19.9	9	8.1	9	10.8	8	4.7	9	9
	評価対象企業評価平均点	74.54	23.42		23.00		8.90		12.22		7.00		

2019年度 評価項目および配点(保険・証券)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (31点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。	12
(2)IR部門の機能	
①IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	7
②IR部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか。	2
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。	4
②会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	6
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (30点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①部門別・地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	7
②事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）開示が十分になされていますか。	7
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	4
④決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていますか。	5
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	4
(3)決算発表日	
・決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー (11点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
①経営陣およびIR部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていますか（報道機関等への対応含む）。	6
②投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものですか。短期、中長期での業績見通し上有益な情報、ガイダンスをプレスリリース、説明会、ウェブサイトなどで広く開示していますか。	3
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトを利用して有用な情報提供（過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況）を日英両言語で行っていますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (16点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明がなされていますか。	6
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策（リスク量の開示を含む）、株主還元方針が十分に説明されていますか。	5
(3)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（ROEの他、業界の特性を踏まえた利益指標や収益性指標やその他のKPI）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (12点)	配点
①決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、テーマ別説明会等を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価]	8
②統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか。	2
③有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。	2

保険・証券専門部会委員

部会長	伴 英康	ジェフリーズ証券会社 東京支店
部会長代理	村木 正雄	元トイ証券
	伊勢 和正	アセットマネジメント One
	大塚 亘	JP モルガン証券
	辻野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	丹羽 孝一	シティグループ証券
	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント

評価実施アナリスト（18名）

伊勢 和正	アセットマネジメント One	丹羽 孝一	シティグループ証券
岩下 暢道	三井住友 DS アセットマネジメント	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
大塚 亘	JP モルガン証券	伴 英康	ジェフリーズ証券会社 東京支店
斎藤 佳奈	三井住友トラスト・アセットマネジメント	摩嶋 竜生	東海東京調査センター
高橋 良平	三井住友 DS アセットマネジメント	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
辻野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	宮田 幸弘	三菱 UFJ 信託銀行
中村 真一郎	SMBC 日興証券	村木 正雄	元トイ証券
永本 成克	MU 投資顧問	簗谷 和子	シュローター・インベストメント・マネジメント
西村 英一郎	野村アセットマネジメント	渡辺 和樹	大和証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。